



突然の膨乳
とっぴんの娘の泣き声

中間テスト結果



放課後
教室前の
廊下で

「ちよつと男子ー!!
サボってないで
ちゃんと掃除してよね!!」



掃除当番の男子たちが
叱りつける女子生徒がいた。
ツインテールを揺らしながら
男子たちに向かって歩いていく。
「そんなに怒ることないだろ
そんなに大それた汚れてないし?」
「あんなにも掃かなくていいし?」

「ああもう！
先生に見つかっても
知らないんだからね！！

勝手にすればいい！！

口論している突然

彼女が胸元に苦しくなる。
締めつけるように大きくなって
身体の一部がいきなり大きくなって
服の中でみちみちと音を立てる。



「あれっ……」

「どうしたんだよそのおっぱい」

「おっぱい……!?」

「おっぱい……!? セクハラはやめてよね
げほっふあれ、なんか苦しい……?」

中間テ

「えっ……
なにこれ!?
胸が……おっきく……!?」
自身の異常に気付いて動揺する。
ささやかだったはずの乳房が大きく膨らみ
制服を苦しそうに押し上げている。



クラスの平均サイズは余裕で越えていそうな
立派なふくらみがたゆんと揺れている。
それをみていた男子たちも動揺している。
目の前の少女が突然
成長期を迎えはじめたのだから当然だ。
「だっ……大丈夫か?」
「保健室行くか……?」
「おいおい……揺れてるぞ」

目の前で起こる不思議な現象に

戸惑っている間にも

その乳房はむくむくと成長を続けている。

「えっ!? やだっ!!
なにがどうなってるのこれ!？」

彼女が身体を動かすたびに
大きな塊がぶるんぶるんと震えている。



男子たちはその光景に目を奪われて

固まっていた。

ごくりと喉を鳴らし、どんどん大きくなる

彼女の両乳房を見つめて立ちつくしている。

乳房が肥大化するにつれ
みちりみちりと制服が悲鳴を上げている。
ボタンが少しずつ
内側からの圧迫に耐えられなくなり
壊れる寸前になっている。



制服の中で乳肉が暴れている。
分厚い布の殻を突き破り
外へ出たがっているみたい
成長を続けている。

「ちよつと、だめ、
胸が、胸が、」

出てきちゃだめえ!!!」

制服が成長を押さえつけようとするが
それでも乳肉は膨らむのをやめず、
ついにボタンは限界を迎えた。
みちりとひととき大きな音を立てる。

ぶちん!!



「んぐううううう!!」
大きく膨らみすぎた乳房が
ついに飛び出した。
頭ひとつ分はある巨大な肉塊が
男子たちの眼前にまろび出る。
「うおおお!!」
驚愕のあまり男子たちはいっせいに声を上げた。

むくむくむくむくっ!!
なおも肥大化することをやめない乳房は、
制服の檻から逃れてついに外へと転がり出た。
「やだっやだあ!!!」
乳房の成長にともない巨大化した立派な乳首が
ぼろん、と露出する。



乳首そのものも指2本分は
ありそうな大きさだが
乳輪も乳首を埋め尽くすくらいに膨らんでいた。
成長にともない体温が上がったのか
乳房の汗がまといわりついて
女の子の匂いがむわりとあたりに充満する。

「.....」
男子たちは巨大な肉塊の圧倒的なビジュアルと
あたりに広がる彼女の体臭で
オスとしての本能を刺激されて
思わず前かがみになりながら
ぼんやりとその光景を見つめていた。



彼女がほんの少し動くだけで
その乳房はぶるんぶるんと大きく揺れている。
「や、やだ.....」
見ないで.....
彼女は恥ずかしさで
どうにかなりそうになっていた。

ぞくんと身体に刺激が走る。
乳房が肥大化する感覚とは別のなにかだ。
身体をびくりと震わせるその感覚は
全身から少しずつ胸の中に集まってきた。
「なっ、なにっ？」
「今度はなにっ!？」
胸の中でなにかが暴れて苦しくなる。
彼女の息が荒くなり頬が紅くなる。



巨大な胸の中で暴れまわる刺激は
じわじわと胸の先端……乳房へと集まっていく。
びくり、と乳房が痙攣したかと思うと
びくり、びくりと震えが止まらなくなる。

「えっ、えっ、えっ……やあ、やだ、なに、これ、
んぐうう、はうっ……!？」

全身の神経がすべて
乳房に集まってくるような錯覚を覚え、
空気の流れひとつでも電流が走ったかのように
敏感に反応してしまう。
なにかが、なにかが昇ってくる。

「ん、っく、なんに……なんが、くる……んあっ、うぐう……はあっ、はっ……」



乳首の口をこじ開けて、乳首の中を飛び出す。乳首もそれを必死で食い止めているが、だんだんと胸の限界を迎えていく。勢いよく乳首に向かって湧き出す。乳首がひとまわり大きく膨らんだ。

だめ、もう……だあ、め……」

「ひぎゅう」

ぶっしゅーっ



ねっとりとした液体が
勢いよく噴き出した。
母乳だ。
どくどくと胸の奥から湧き出してくる。
あたりに母乳を撒き散らしながら
彼女は射乳だけで絶頂した。
「いぎゅうっ／＼いぐっ／＼
おっぱい、いっちょやうっ、
これだめえええええっ!!!」

顔に思いつき母乳を浴びた
男子たちが困惑している。

「ちよ……ちよっと
大丈夫かよ」
「ほ、保健室？
病院？
行こっか？」



「なっ、なにこれっ
なにこれえ!!
あなしの胸が……
こんなにおっきく……」

射乳を終えた彼女は自分の乳房を
確かめるように触っている。
汗まみれになっただけで、
乳首がまだびくびくと痙攣していた。

「どっ、どうしよう、
あたし、こんな胸で、どうすればいいの……」

このクラスどころか
学校中、町中、世界中探したって
これより巨大なバストは
存在しないのではないか。
彼女は不安になり
これから生活のことを考えていた。



歩くだけでぶるぶると暴れまわる
制御不能の乳房。
視界はむちむちした肌色の肉塊で埋まり、
足元なんてとうとう見えなくなった。

しかし彼女の心配など気にする様子もなく
乳房はさらに肥大化し始めた。
むくむくむくむく……と
みるみるうちに彼女の周囲が
乳房で埋め尽くされる。



「あっ!! あえっ!!」

うそ、やだ、

まだ、止まんな……

やだあ、止まってええ!!」

歩くことさえ困難なサイズの乳肉が
たぶんたぶんと波打つ。

「ちょ、ちょっと、
やだ、見ないでよあ……」
巨大化した柔らかな乳肉に
釘付けになっていた男子たちが目を逸らす。

「ごっ、ごめん。
つい……」

圧倒的なボリューム。
圧倒的な汗と母乳の匂い。
男子たちにとつては
見ないほうが難しいほどに
その乳房は魅力的だった。



そうしている間にも乳房は
むくむく、むくむくと肥大化していく。
男子たちを押しつけ、
廊下を埋め尽くすくらいの
巨大な乳布団ができあがったあたりで
ようやく成長が収まった。

「ふふふ……
でかすぎでしょお、これえ……」



彼女が体重をかけるたびに
乳房がぼよんと跳ねる。
吸盤のように吸いついてしまいそうな
むちむちの肌。
汗をかいてしっとりしている。

乳房全体に敏感な神経が通っているようで
少し動いただけでも
床にこすれて気持ちいい。
まるで全身で自慰にふけているみたいだ。
「やあ、だめえ、ヘンになるぅ、んあ……」



乳房全体の体温が上がってくる。
全身がぞくりと震え上がる。
先ほども感じたこれは――射乳の前兆だ。



「あっ!!
だめだめえ、
今くるのはだめえ!!」
全身の過敏な神経が乳首の先に集まってくる。
どくんどくと胸の中で、
母乳が作られているのを感じる。

どくん、どくん、どくん。
まるで乳房全体が脈打っているみたいだ。
みちみちと内部から母乳が押し上げてくる。
手のひらから感じる弾力が強くなってくる。

乳首がびくびくと震えはじめる。
母乳の流れが次々と先端に集まっていく。



先ほどよりもずいぶんと
巨大になった乳首だが、
乳房を流れる母乳の濁流は
それ以上に巨大化していた。

びくびくびくんと
乳首が悲鳴を上げる。

「あつ、あ、だめ、
また、また出ちゃう!!!」

いちど押し広げられた乳首は
抵抗力を失い、簡単に口を開ける。

「だめええ——っ!!!
ぜんぶ出ちゃうっ!!!」





「んんあうあうあう!!!」

ぶっしゅしゅしゅしゅ!!!

びゅるっ、びゅるるるる!!
ぶびゅっ、ぶばああ!!

「はうっ、んっ、んくう!!
はひっ、あひいいい!!」

勢いよく噴き出した母乳の奔流が廊下中を押し流す。ねとねとの体液で床も壁も浸食する。逃げきれなかった男子たちが母乳に足を取られてすっこける。

「ら、らめ、これ、
とまん、ですぎちゃう、
うぐうううう!!!」

母乳を噴き出すたびにびくびくと痙攣する身体。射乳だけで何度も絶頂を繰り返している。



ぶほっ、ぶほほほほほほほほほほ!!!
母乳の勢いはとどまることを知らず、
むしろ量が増えているほどだった。



「はひひひひひひひひひひ!!!
ふひっ、ひひひひひひひひひひ!!!」

びくっ、びくん！
彼女の身体が痙攣を繰り返す。
それでもフルスロットルで
母乳を生産する巨大な乳房。
「あひっ、はひっ、ひい！！
も、もう、だめ、
おかしくなっちゃう、これえ」

彼女の乳房が生産をやめ
どうにか落ち着きを取り戻したのは
十数分後のことだった。





気が付いたときには廊下は
母の川のようになっていた。
その後は彼女は男子たちと共に
廊下の乳を片付けることになったため、
結果的には男子に掃除をさせることに
成功したのであった。

おしまい

中間テスト結果



中間テスト結果



中間テスト結果



中間テスト結果



中間テスト結果



中間テスト結果



中間テスト結果



中間テスト結果























